福島大学行政政策学類同窓会

阿武隈会報

第 19 号

発行年月日　平成 25 年９月 26 日
発　行　所　福島大学行政政策学類同窓会阿武隈会
〒960-1296 福島市金谷川１番地
発　行　人　小田島　拓　哉
編　集　者　堀江　正樹・斉藤　雅洋
工藤　真之・渡邉　弘利
矢内　祐紀・加藤　千里
題　　字　大　谷　明　夫
（初代行政社会学部長）

手伝えないと言われたら？

阿武隈会長
小田島　拓　哉

あなたのお話を伺いたいのです。

あなたは、異業種交流会の意義はお認め頂けますか？「人は現実のすべてが見えるわけではなく、多くの人は見たいと思う現実しか見ない。（カエサル）」とのこと。普段接しない方の経験・哲学等は、私のような凡人でも「見たいと思う現実」以外の知見を得るチャンスです。阿武隈会では毎年、福島市と東京で懇親会を主催、最近は他県（昨年は栃木と宮城）でも、懇親会を行っています。これらは、同窓以外の因子が「異なる」交流会と言えるでしょう。

私はあなたのお話を伺いたいのですが、あなたは、恩師友人を誘う方が、幸運を得やすいかもしれません。行きにくさのハードルが下がるし、知人が別の知人を呼び、新しい輪が広がるかもしれないからです。勿論あなたが「一方的に話す」だけでもいいですが、「対話」を愉しみ、あなたが何かを得られれば嬉しいです。阿武隈会の同窓生の多くは五十代になっていないため、功成り名遂げた方々しか行けない雰囲気の同窓会よりは参加しやすいかと思います。特に福島・東京懇親会の会費は阿武隈会の主催行事であり、格安であることは付言しておきます。

最後は好きだった方の文で締めます。正義を語るのは私でも誰かでも、非礼を承知で、あなたでも良いと思います。いまの世での、メタ視点からの相対化を自覚、自嘲しつつ。

山本夏彦『二流の愉しみ』より

「理解をさまたげるものの一つに、正義がある。良いことをしている自覚のある人は、他人もすこしは手伝ってくれてもいいと思いがちである。だから、手伝えないと言われるとむっとする。むっとしたら、もうあとの言葉は耳に入らない。」

思えば遠くへ来たもんだ

学類長（同窓会顧問）
中　川　伸　二

この４月から辻前学類長を引き継ぎ、学類長になりました中川と申します。お見知りおきのほどよろしくお願いいたします。

福島大学へ参りましたのは、1992年のことでした。生まれ育った九州の地を初めて離れて、親戚どころか、わたしが知っている人もわたしのことを知っている人もまったくいない土地で暮らすはずでした。ところが赴任してしばらくして、どうも同僚のＳ先生とどこかでお会いした気がしてなりません。お聞きすると、Ｓ先生はわたしと同じ大学出身だったのですが、いかんせん20歳以上が離れすぎていて接点はないはずです。Ｓ先生ご本人も心当たりはないとおっしゃいます。

なんだかもやもやした気持ちでたぶん１年以上過ぎたころだったと思います。なぜ思い出したのかは思い出せないのですが、突然ひらめきました。Ｓ先生に確認してみると「おお、確かにそうだった！」とのお答え。

なんと、Ｓ先生、英語の講師としてわたしが当時通っていた予備校で授業をしていたことがあったのです。わたしはその授業をとっていたのでした。いやはや月並みですが、世の中狭いです。

Ｓ先生はそれからしばらくして他大学へ移られましたが、わたしには、家族とたくさんの友人ができました。ゼミなどで担当した卒業生ももうかなりの数になっているはずです。同窓会はその大事なつながりを築き、育んでいく場所であり続けていただきたいと思います。

振り返れば、学生時代を過ごした博多はおろか、生まれ育った熊本を抜いて、福島はわたしがもっとも長く暮らす町になりました。でも、今だに福島弁は聞き取れないですけどね…。

報道等でご存知かと思いますが、本学類教員が酒気帯び運転の疑いで検挙されました。同窓生のみなさまにも大変なご心配、ご迷惑をおかけしてしまい、心よりお詫び申し上げます。今後二度とこのようなことが起きないように、再発防止に向けて教員への指導や法令順守を徹底して参る所存でございます。

学類の最近の状況と新たな取り組みについて

学類長（同窓会顧問） 中川　伸二

【恒例の風景】

まず４月の合宿ガイダンス。なんと今年は雪が降り積もるという珍事に見舞われたようです。開催時期は例年と変わりませんので、昨今流行りの異常気象だったのかもしれません。

咲いたばかりの桜に雪が積もってかなり寒かったようですが、新入生もシニターたちも元気いっぱい、楽しめたようです。

fukushima_adsのツイッターより

その新入生たちも、入学してもう４か月になろうとしています。入学したての頃は制服着たら高校生と区別がつかない（ま、当たり前ですが）くらいだったのが、今では迷わず教室にたどりつき、学食での席取り競争にも十分余裕が感じられます。

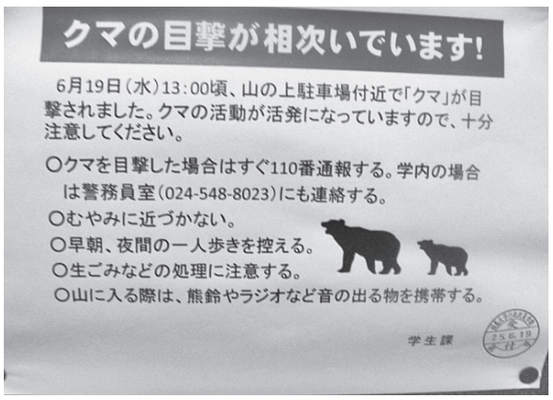
８月４日（日）には、今度はその１年生が中心になって、来校した高校生たちに、行政政策学類のＰＲ活動をやってくれました。真夏の暑い中、こっちでキャンパスツアーの先導役をやっていたかと思ったら、今度は相談ブースで学生生活の指南役になったり、はたまたパネル紹介のレイアウト作業をやったり…。大忙しです。さらにその中でもメーンイベントは、学生による学類説明会（通称ガクセツ）です。いまや60名を超える大所帯を抱える“演劇”（？）集団と化した彼らは、脚本もばっちりとばかりに、大学生活を４つのパートに分け、劇仕立ての学類紹介を行います。時間は１時間15分と、ちょっとした映画の１本分くらいあります。オープンキャンパスがまだそれほど大規模に行われていなかった時期の同窓生のみなさんには、よくお分かりいただけないかもしれませんが、この集団の中から多くのシニターが生まれていくことを踏まえると、合宿ガイダンスに次ぐ本学類のメイン企画となっていってます。

今年のオープンキャンパス

恒例と言えば、今年も出ましたよ、クマ。別に毎年出なくていいんですが…。近くに来なくていいんですが…。やはり５～７月くらいまでは要注意です。

学類棟玄関階段裏にゴミステーションがあるのですが、そこが最近常時満杯状態になっています。特に、学内で会議や集会などが開催された時には弁当のカラなどが大量に出ますので、クマが嗅ぎつけて来はしないかと心配しています。施設課の方へはすでにゴミステーションの改善要求も出しているところです。

このビラにも書かれている通称「山の上駐車場」のところには、今夏「うつくしまふくしま未来支援センター」の建物が建ち、これから「環境放射能研究所」という新しいビルの建設が始まります。クマの生息域を侵略しているのは私たちのような気がしてきました。



学内に張られた注意喚起の掲示

【文部科学省「地（知）の拠点整備（ＣＯＣ）事業」に選ばれました】

全国の国公私立大学あわせて300を超える申請があった中で51の採択校の中に福島大学が入りました。事業名は「原子力災害からの地域再生をめざす『ふくしま未来学』の展開」です。被災地にある大学として福島大学はこれまで以上に「地域に開かれた大学」として、復興に携わる有為な人材を育成することを重要な社会的使命としなければなりません。そのための新たな教育プログラムを、行政政策学類が中心になって

全学体制で進めていこうと考えています。

特修プログラムというのは、指定されている科目を一定単位以上修得すると、特修プログラムを修了したものとみなされ､副専攻が授与されるというものです。通常、学生のみなさんは主専攻として自分が入学した学類で専門教育を受けます。入学した人の中には、震災支援や被災地復興のことにとても関心があり、大学で学んだことを卒業後復興に生かしていきたいと考えている人は、数多くいることでしょう。それは特定の学類だけに限定されるのではないはずです。震災以降は特にそのような目的で福島大学を選択した人も少なくありません。そうした高い向学心をもっているみなさんに、専門領域とは別の課題を自覚的に履修してもらい、主専攻とは別の副専攻の修了を認めようというものです。

対象となる科目は、実習的性格の強い科目や地域社会やコミュニティの学習をする科目、さらには、再生可能エネルギーに関する研究や災害復興に関わる科目など、全学類で開講している科目の中から指定していきます。震災以降に開講された総合科目「災害復興入門」や「原子力災害と地域」などもありますし、来年度以降も新しい科目を開講し、このプログラムの指定科目にしていきます。実はその中のひとつの科目については、行政政策学類の同窓生のみなさんに一肌脱いでもらい、講師として登場いただくような科目が作れないかと思案しているところです。

また本プログラムの目玉として「むらの大学」というユニークな科目も取り組んでいきます。これは震災以降空き教室が増えて使わなくなった校舎や廃校になってしまった校舎を利用して、むらのにぎわいを取り戻すべく様々な企画やプロジェクトを立ち上げる拠点（プラットホーム）を作っていこうというものです。まだ具体的な内容は詰められていませんが、文部科学省の補助を活用して充実した内容にしていきたいと考えています。

さらにこのプログラムは大学内にとどまるものではありません。復興への長い道のりで、非常に多様な実情を抱える福島県内自治体に必要なのは、さまざまな実情を抱えた地域の課題に果敢に取り組んでいこうという意欲的な人材です。それには学生だけではなく地域の人々、自治体やＮＰＯ職員などさまざまです。さまざまな人がいなければ今の被災地の複雑できわめて多様な課題には到達することすらできません。

補助事業の期間は５年間ですが、補助が終了しても継続していけるようなプログラムにしたいという意気込みで準備を進めているところです。

【「ミッションの再定義」？？】

今、国立大学法人を取り巻く状況は非常に厳しいものとなっています。といった表現は、法人化以来聞きなれたフレーズかもしれません。

昨年、毎度お騒がせの田中真紀子元文部科学大臣が物議をかもしたことがありました。騒動の解釈はいろいろあると思いますが、単純化すれば、少子化が進む日本なのに現存する大学の数は多すぎる、だから、これから新規増設の要求があってもこれまで通りにはいきませんよ、というメッセージを伝えようとするものだったと思います。国立大学法人に寄せられているリストラすべしの風潮を象徴する出来事でした。１兆円を超える国立大学法人運営費交付金はちゃんと社会のニーズに合った使われ方をしているのか？少子化が続いていく今の日本において現在の国立大学の数は必要なのか？…。

確かに似たような声は以前にもあったということはあるかもしれません｡ただ今回は様子が違うようです。文科省はすべての国立大学を呼びつけて、その大学にある既存の学部について、その社会的使命や役割（これをミッションと呼んでいます）を文科省の強い指導の下、再定義して、改革の実行につなげようとしています。

先ほどのＣＯＣ事業なども見方を変えれば、地方国立大学のサバイバル競争だともいえます。国立大学法人運営費交付金が年々削減されていく中で、「選択と集中」という資源の選択的な集中投入は政権が変わってもなお、というより変わったがゆえにさらに一層加速化されています。今安倍政権は、グローバル人材の育成とイノベーション化という二つに重点化した予算配分シフトになっています。そうした重点化のために人文系、社会系の学部への風当たりが強くなるということです。

同窓会のみなさまにも今後一層、ご協力、ご支援を賜れれば大変心強いです。これは社交辞令抜きで、本気でお願いしたいと思います。特に、「あぶくま学生支援基金」については、支援を受けている活動やプロジェクトの中に、先ほど述べた特修プログラムにつながるような内容をもったものも生まれてきており、極めて有意義なものとなっています。引き続き、「基金」についてはありがたく頂戴（?）し、有効に活用させていただきます。

会員からの近況報告

楽しく働き、明るく生きる。

平成13年卒業
伏見　浩司

2012年春、10年間の会社員生活を辞め、起業しました。起業から約１年が経ち、この近況報告の場を借り振り返ってみたいと思います。

まず、なぜ起業なのか。

理由は２つ。仲間や家族のチカラになれる人間でありたいという思い。特に震災以降、福島の友人や地元宮城の沿岸部に住む親族の手伝いをしていて、いつ人生が終わっても良い生き方をしたいと思うようになりました。

もうひとつは、デザインとＩＴの可能性にかけて全力で仕事をしたいという思い。

これらの思いが強くなり、見切り発車状態で会社を辞め、歩み始めました。

始めたばかりの頃、まず仕事はどこから取ってくるのかわからない、会計業務は面倒、時間が無い、理想と現実が違いすぎるなどすぐに壁にぶち当たりました。どんどんなくなる口座残高。世の中の社長は本当に凄いと思いました。

１年経った今、仕事は理想と現実の差を理解し、その差を埋めて行くことなんだなと思うようになりました。そんな考え方もできるようになり、やりたいことは山積み、苦しいことも辛いこともありますが全部ひっくるめて、最高に楽しい日々を送っています。

そもそも､なぜ行社の人間がデザインとＩＴなのか、それは学生時代に遡ります。

2000年前後、自然豊かな金谷川でアパートの窓を全開に蛙の声をＢＧＭに真っ暗な部屋でアンビエントな音楽を聴き、週末には夜な夜なクラブに出かけ、インターネットの向こう側に広がる世界の面白さにワクワクしつつモラトリアムな時期を謳歌していました。

この時期に本気で遊んだことがデザインに興味を持ち、ＩＴの世界に飛び込むきっかけとなりました。自由に好きなことに打ち込める環境であった村山ゼミ、坂上ゼミには本当に感謝しております。

坂上先生には東京同窓会でも毎年のようにお会いし、近況を報告させていただけることが励みになっております。

短い人生、乗り越えられる壁しか目の前に来ないという言葉を信じて、生涯チャレンジして行きたいと思います。

震災と文化財

平成17年卒業
田村　正樹

私は宮城県の海側にある町の資料館で、文化財を守る仕事をしています。東日本大震災では、地域の文化財が津波で被害を受けたり、道具が被害を受けて伝統の祭りが開催できなくなったりと甚大な被害が出ました。私は震災直後から避難所の担当となり、当初は文化財の被害調査を行う暇は全くありませんでした。被害調査が出来たのは、震災から２ヵ月後。もう少し早く調査ができれば、より多くの文化財を救えたのではないか。そんな思いが日に日に強くなり、自分ひとりができることの限界を思い知りました。

こうした中、被災した建物の中から貴重な資料を救い出したり、汚れてしまった資料を洗浄し修復する活動が、震災直後から各地の博物館や大学、文化財修復の専門家などによって継続的に行われています。また、高台移転の造成や堤防の改修など復興工事に伴って遺跡の発掘調査も盛んに行われ、これまで知られていなかった地域の新たな歴史も明らかになっています。この調査にも全国各地から派遣された職員の協力によって行われていて、中には阪神淡路大震災の経験を東北でも生かしたいといらしている方もいます。こうした多くの方に支えられて、傷ついた多くの文化財が救われ、地域の新たな歴史を明らかにする調査が行われています。

時々、「被災者より文化財の方が大事か？」、「文化財の調査で復興事業が遅れている」といった言葉を耳にすることがあります。とても悲しい言葉です。決して、文化財は復興の妨げではありません。文化財は、地域の人々の心の拠り所であり、代々大切に守り伝えてられてきた宝であり、かけがえのないものです。最近、歴史的な建物などを街づくりに積極的に活用する事例の増加や富士山・平泉の世界遺産登録など、地域の文化財や伝統文化の価値が見直され、評価されつつあります。東北の復興は始まったばかりですが、復興後の新たな街づくりに文化財が果たす役割はとても大きいと思います。復興と文化財が両立する街づくり、地域づくりができるよう、私も微力ながら努力していきたいと思います。

総会・懇親会開催

去る平成24年10月27日（土）に福島市北町の珍満賓館（旧珍満）で平成24年度阿武隈会総会及び懇親会を開催しました。

当日は、総会・懇親会に先立ち、プレイベントとして、午後２時30分より、福島テルサにて、「『飯館村は負けない』から見る福島の復興への道すじ」と題して第13回地域社会研究会を開催しました。研究会では、松野先生から飯館村の実態と復興に向けた取組みの課題の本質を、著書の執筆過程の裏話も交えながらお話していただいた後、飯館村を起点とした福島の復興の道すじについて、参加者全員で意見交換を行いました。

議論が盛り上がり、予定終了時間の午後４時半を超え、意見交換が懇親会に持ち越すくらいでした。

その後、珍満賓館で、午後５時半から総会を開催し、平成24年度事業及び決算報告、平成24年度事業方針及び予算等について審議を行い、いずれも満場一致で同窓生の皆様のご賛同をいただきました。

引き続き、懇親会を開催しましたが、参加者の皆様の御協力により総会をスピーディーに終了することができましたので、午後６時前には懇親会をスタートさせることができました。

懇親会は、阿武隈会小林副会長のあいさつに始まり、行政政策学類長辻先生のあいさつと続き、畑先生に乾杯の御発声をお願いし、歓談となりました。当日は家族連れの方もおり、珍満賓館３階の会場は同窓生、同窓生の家族、教員で一杯になり、おいしい中華料理を食べながら、近況報告や意見交換が活発に行われ、大変有意義な時間となりました。会場の外はあいにくの雨で肌寒い気候でしたが、会場内は熱気がみなぎっていました。お忙しい中お越しいただきました同窓生の皆さん、先生方、ありがとうございました。

学類長あいさつ

懇親会は、盛り上がりが冷めやらぬまま、午後８時半位にお開きとなりましたが、引き続き有志により福島市内で２次会を開催させていただき、多数の方が参加され、さらに盛り上がりを見せました。

盛況な福島総会・懇親会でしたが、「もっと多くの同窓生に参加してほしい」「東京懇親会のように何かアトラクションをやったほうがよいのではないか」などの意見もいただきました。今後は、参加できなかった同窓生の皆さんにも、次回参加いただけることを期待するとともに、より多くの方が参加いただけるよう配慮してまいりたいと考えておりますので、開催方法等について、いろいろなご意見をお寄せいただければ幸いです。

地域社会研究会

平成25年度の総会･懇親会ですが、ホテル福島グリーンパレスを会場に、10月26日（土）午後５時30分から開催させていただきます。

併せて、総会・懇親会のプレイベントとして、当日午後２時30分より、グリーンパレスにて、「地域社会研究会」を開催いたしますので是非ご参加ください。

なお、福島総会・懇親会及び地域社会研究会につきましては、会報に同封した開催チラシをご覧ください。

教員異動

日付	職名	氏名	専門講義科目等	異動内容
24.9.30	教　授	兼　田　　繁	地域社会学	退職
25.4.1	教　授	中　川　伸　二	現代政治論	行政政策学類長
25.4.1	教　授	新　村　繁　文	刑法	教育研究評議会評議員
25.4.1	教　授	中　井　勝　己	環境法	学長特別補佐 （うつくしまふくしま未来支援センター担当）
25.4.1	准教授	中　里　　真	民法	採用
25.4.1	講　師	阪　本　尚　文	憲法	採用

東京懇親会開催

平成24年11月17日(土)に日比谷・松本楼（日比谷公園内）において、東京懇親会が開催されました。当日は不安定な天候でしたが、松井先生、坂上先生、中山先生をはじめ、同窓生等25名にご参加いただきました。今回の東京懇親会は２年ぶりの開催でした。昨年度は、東日本大震災を考慮して、福島での合同開催だったためです。震災後初めて東京での会合ということもあり、震災当時の状況や福島の現状について情報交換したり、久しぶりの再会を喜びながら、話に花を咲かせていました。

懇親会は、会長の挨拶、先生による乾杯で始まり、伝統・格式のある会場にふさわしい上品な料理を堪能しながら、終始和やかな歓談となりました。しばらくして、各先生方から近況や当時の状況についてのお話を伺いました。今回は「同窓生相互の親睦」のほか、「福島の応援・支援」を目的としたため、参加費の一部を復興支援活動への寄付金とさせていただきました。また「復興支援活動の紹介」として「福島大学あぶくま学生支援基金」や「かーちゃんの力・プロジェクト」について紹介しました。前者は、本学類生を中心とする自主学習やボランティア、地域活動を幅広く支援する取り組みです。寄付者には、本基金の「特別大使」に就任していただき、本学類のロゴや氏名入り名刺が後日配られました（寄付をいただきました参加者の皆様、大変ありがとうございました。改めてこの場をお借りして厚く御礼申し上げます)。また、後者は、震災を受けたかーちゃん達（女性農業者）が立ち上がり、地元の特産品や加工食品を販売し、故郷の味・おふくろの味で地域を元気にするプロジェクトです。今回の懇親会では、その販売品の一つである「ゆず入り大根の酢漬け」を購入し、記念品として配布しました。（ご興味のある方は、ホームページ「http://www.katyan.com/」をご参照ください。サポーター会員にもなれます。）

最後は、阿武隈会（ＡＢＫ？）恒例の「じゃんけん大会」を行いました。（近年、某アイドルグループが真似しているようですが、こちらが元祖？？）Ａ元プロデューサー似の先輩に見守られ、ご当地ゆるキャラ似の先輩の応援を受け（…失礼しました）盛大に行われました。勝者には、寄付への感謝の気持ちも込め、福島物産館で購入した地酒や土産品等の様々な景品をプレゼントしました。

その後、少し離れた２次会へ移動しました。会場はこちらも福島にゆかりのある「会津ふるさと物産館(会津さ・よってがんしょ)」にて行いました。ここから、辻学類長にもご参加いただき、延長戦とばかりに、今後の福島についての議論や異なるメンバーと交流を深めていました。（料理で出た「ロシアンたこ焼き」で「からし入り」に当たった方、お腹は大丈夫でしたか？)。こうして、盛会をもって無事終了することができました。

今回の東京懇親会は、例年よりも少人数でアットホームな深い交流が出来ました。これからも多様な懇親会の形式やイベントを考慮しながら開催したいと考えています。また、次第に薄れつつある震災への思いや復興への取り組みを風化させないためにも、より絆を深め、少しでも盛り上げていければと考えています。同窓生のみなさん、何かと忙しい毎日を過ごしていると思いますが、気軽に参加して、一息ついてみる、初心に帰る、交流を楽しむ、福島を考える、復興支援に協力する、等をしてみてはいかがでしょうか。

福島県へ提言書を提出

福島大学は、福島の未来を県民と一緒に創り上げていくため、福島県企画調整部の協力のもと、「福島の未来に関する政策提言に向けた意見募集」を実施（H24年８～９月）しました。

本プロジェクトは行政政策学類　丹波史紀准教授を中心に実施され、県民1,232人から寄せられた未来の福島に関する熱い思いを受け止め、その分析結果と７つの提言をまとめ、福島県に提言書として提出しました。公表資料はうつくしまふくしま未来支援センターホームページをご覧ください。

http://fure.net.fukushima-u.ac.jp/news/post-64.php

文化財等救援・修復活動が文化庁長官表彰を受賞

福島大学うつくしまふくしま未来支援センターでは、歴史資料担当が行う東日本大震災によって被災した文化財等の救援・修復活動について、文化庁長官から功績を認められ、平成25年３月に感謝状が授与されました。

東日本大震災で被災したものの中には、古文書・考古遺物・民具などの歴史資料、美術品、自然史資料など、数多くの文化財が含まれ、今なお苦難を抱える被災者の“心の拠り所”として、或いは復興後の地域のシンボルとして保全する必要があると考えています。

歴史資料担当は行政政策学類　菊地芳朗教授、阿部浩一准教授を中心に学内外の研究者で構成し、福島県内外の関係機関等と協力しながら、文化財の保全と活用に積極的かつ継続的に取り組んでいます。

http://fure.net.fukushima-u.ac.jp/news/post-70.php

「共に生きる Vol.2 ～震災後の記録～」を刊行

福島大学は「うつくしまふくしま未来支援センター」を設置以来、福島県の復興に向けた支援活動に取り組んでいます。この度、平成24年度の諸活動を記録にまとめ、今後の復興に向けた活動の展望となるよう「共に生きる」Vol.２を刊行しました。

冊子には、震災後２年目の教員･学生の取り組みや、震災後の学生支援、教育・研究、放射線対策等の大学の動きも紹介しています。福島大学ホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。

http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/outline/tomoni.html

「ふくしまの想いを届けよう！福島大学 教育支援＆復興マルシェ in 文部科学省」を開催

文部科学省と福島大学は、平成24年11月８日(木)に文部科学省庁舎前「霞テラス中央ひろば」において、「ふくしまの想いを届けよう！福島大学 教育支援＆復興マルシェ in 文部科学省」と題して、教育支援や産業復興の諸活動を紹介するイベントを開催しました。福島大学の避難者・被災者への支援や福島県の復旧・復興に向けた活動を紹介することにより、ふくしまの「今」を伝え、風評を払拭し、福島への観光や応援のきっかけとなるよう、霞ヶ関をはじめ首都圏に向けた広報活動の一環として「復興マルシェ」「教育支援プレゼン報告」「活動パネル展示」の３部構成で行いました。

「復興マルシェ」では、生産者と消費者をつなぐ青空市（マルシェ）を開催している経済経営学類の学生が、旬を迎えたリンゴやラ・フランスの試食を提供したり、農産物の説明や活動の紹介をしました。併せて、農産物の放射性物質検査のデモンストレーションも行い、福島の食の安全・安心への理解を求めました。

復興マルシェの試食提供

「教育支援プレゼン報告」では、避難児童の学習・遊び支援を行っている人間発達文化学類の学生や教員から、こども支援活動やＯＥＣＤ東北スクールの活動について報告があり、子どもたちと接する中で「あらためて教員になりたいと思った。」と言う学生の話に、来場者が熱心に耳を傾けていました。

パネル展示では、多くの来場者が資料を手に取りながら見入っていました。

パネル展示の様子

会務報告

（H24（2012）年）
６／２　理事会（新年度予算・方針審議）
９／25　会報（第18号）発行・発送
10／13　保護者向け学類説明会・同窓生懇親会（栃木地区）★学類主催、後援会および同窓会で支援
10／17（参考）「福島大学あぶくま学生支援基金」設立記者発表
10／20　保護者向け学類説明会・同窓生懇親会（仙台地区）★学類主催、後援会および同窓会で支援
10／27　地域社会研究会（於：福島テルサ）／総会・懇親会（於：珍萬賓館）
11／３　保護者向け学類説明会（福島地区）
★学類主催、後援会および同窓会で支援
11／17　東京懇親会（於：日比谷 松本楼）
（H25（2013）年）
２／23　理事会（年度総括・次年度方針整理）
３／25　卒業記念パーティー（於：福島グリーンパレス）

同窓生懇親会について

今年度も学類主催の保護者向け学類説明会に併せて、同窓生の懇親会を開催予定です。中川学類長はじめ、学類の先生方２名程度が参加されることになっております。

詳細については、下記近隣（県内）居住者向けに、別途ご案内させていただきますので、日程調整の上、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、ご案内がいかない場合でも参加可能ですが、事前の参加申告が必要ですので、事務局までお問い合わせください。ホームページでも情報公開します。

９／28(土)：新潟
１／25(土)：盛岡

名簿システムについて

昨年度より、インターネット経由でご自分の登録情報について参照・更新が可能な新名簿システムを稼働させております。

★名簿システム：http://abukumakai.alumnet.jp

＜メンテナンス方法＞

１．会報宛名用紙に記載されているＩＤ・パスワードで上記名簿システムへログイン願います。（ＩＤ・パスワードは初期情報になりますので、既にご自身で変更されている場合はそちらをお使いください）
２．システムへログインしたら、メンテナンスをお願いします。
★ログイン後の画面にメンテナンス方法の詳細説明を掲載しておりますので、メンテナンス前に必ずお読みください。
３．システムへのアクセス手段がない場合は、事務局で入力代行をします。
送付された宛名用紙に記載された情報を修正のうえ、いずれかの手段で事務局へ送付願います。
１）FAX 024-548-8264（番号誤りに十分注意願います）
２）郵送（郵送にかかる代金はご負担ください）

＜重要なお知らせ＞

１．本システムでは、下記情報を必須情報とさせていただいております。
その他は任意項目となりますが、極力登録いただきますようお願いいたします。
・ＩＤ ・姓 ・名 ・生年月日 ・現住所 ・パスワード
２．本システムでは、会員検索機能を無効にしております。特定会員へのお問い合わせに関しては、従来どおり事務局へお問い合わせください。
３．本システムの情報は次の目的の範囲内で利用いたします。
・会員名簿の整備（配付・頒布は一切行わない）
・会報、各種行事開催案内の送付
なお、一定の事由に基づき、大学関連機関（全学・学類等）へ情報を開示する場合があります。
４．名簿データへのすべてのアクセス情報はログとして記録され、管理者が閲覧可能になっています。
なお、本人の申請により本人データへのアクセスログを提供可能です。
５．場合により、事務局で一部データを補正することがありますので、ご承知おき願います。
（例：指導教員氏名の姓名１文字空け、外字修正など）

＜お問合わせ窓口＞

阿武隈会事務局
new_system@abukumakai.jp or FAX 024-548-8264
（個人情報取扱担当者：小林まり子・工藤　真之）

会 員 状 況

（平成25年８月末現在・入学年で分類）

【正会員】
１期生（S63）250　２期生（H01）253　３期生（H02）262
４期生（H03）260　５期生（H04）255　６期生（H05）286
７期生（H06）301　８期生（H07）275　９期生（H08）257
10期生（H09）258　11期生（H10）272　12期生（H11）284
13期生（H12）274　14期生（H13）263　15期生（H14）265
16期生（H15）260　17期生（H16）280　18期生（H17）228
19期生（H18）229　20期生（H19）230　21期生（H20）233
22期生（H21）235
現代教養　144
研 究 科　115（学部／学類からの持ち上がりは除く）

【準会員】
研 究 科　48（学部／学類からの持ち上がりは除く）
４年次（H22）219　３年次（H23）244　２年次（H24）218
１年次（H25）216
現代教養
４年次（H22）29　３年次（H23）22　２年次（H24）24
１年次（H25）25

平成24年度役員名簿

（丸数字は入学期別）

会　長　★小田島拓哉①
副会長　★小林　孝②　柳沼美智子④
監　査　田中　康治①　小林　良平⑤
理　事　★渡邊　弘利①　★加藤　千里①　★矢内　祐紀①
★工藤　真之②　鈴木　敬②　香野　雅之④
小椋純一郎⑤　若松　麗葉⑥　堀江　正樹⑪
斉藤　雅洋⑫　本田　太郎⑨　堀越　晃彦⑬
鈴木　貴士⑭　小松　慎司⑭　増戸　大⑮
高橋あゆみ⑳
幹　事　田中　信也②
★は福大同窓会（全学同窓会）役員兼務